



カトリック

三軒茶屋教会

# おとずれ

2016年6月26日発行 第61巻 第4号



聖ペトロ・パウロ号

## 聖ペトロ聖パウロ祭によせて

主任司祭 ミカエル 湯澤民夫神父

再び三軒茶屋教会に来て、ここの教会の信者さんたちは、長い言葉を短縮するのが好きなのかも知れないと思った。教会の保護の聖人である「使徒聖ペトロ、聖パウロ祭」を「ペパ祭」と呼んでいたからである。確かに長いから短い方が呼び易いのかも知れないと納得したが、信徒たちが親しみを込めてそう呼んでいるにもかかわらず、私は、何となく「こそばゆさ」を感じていた。

司祭になって、最初に赴任した教会は、洗礼者聖ヨハネの教会だった。その祝日の頃バザーがあったような気がする。遠い記憶である。次は、小教区の教会の向かいに建っている修道院で、聖アントニオが保護の聖人だった。聖アントニオの祝日当日には、道路の両側百メートルくらいに屋台が並び、朝からひっきりなしに巡礼者が訪れ、ミサの最中であっても聖アントニオのご像の前に火の灯ったロウソクを並べていく。それは、盛大だった。

次は、聖フランシスコ。フランシスコ祭には、聖堂前の聖フランシスコのご像の前から行列して聖堂に入る。あまりにも形に囚われていたから、聖フランシスコの書き物（『全キリスト者への手紙』）をご像の前で朗読するなど、聖フランシスコのメッセージが信徒の心の届くようなものに変えた。そして、短い期間だったが、三軒茶屋だった。その頃は、まだ両聖人をそれほど祝っていなかったような気がする。次は、修道院で聖ヨゼフだった。修道院としては、お祝いしていたが、小教区がついていないので、こじんまりとしたお祝いだった。そして、再び聖フランシスコ。九年前から、聖アントニオ。神学生の頃は、聖アントニオを六月にお祝いし、勤労感謝の日に、「アントニオ祭」を催していた。神学生が、講演をしたり、演芸をしたり、神学院を支えてくれていた人たちへの感謝祭で、結構楽しかった。しかし、瀬田は、教会としては、お祝いしていなかった。その三年後、三軒茶屋も兼ねた。その時は、両聖人のお祝いは、「ペパ祭」になっていた。

なぜこの教会をたてた最初の人たちが、この二人の聖人の名を選んだのだろうか。私が最初にこの教会に来た時、聖ペトロと聞いて思い浮かべたのは、バチカンの聖ペトロ大聖堂であったし、そこにある聖ペトロの像であった。皆が足に触って行くので、指が磨滅して、なくなっていた。そして、ローマ郊外の聖パウロ大聖堂（城壁の外の聖パウロ聖堂）である。聖堂前には、見上げるように巨大な聖パウロの像が立っていた。

振り返ってみると、この六年間、聖ペトロと聖パウロが教会の保護の聖人であることを、あまり意識させないで過ごしてしまったな、と自己反省している。いや、言葉の響きのこそばゆさの故に、盛り上がりや消してしまったのかも知れない。自己反省が実らないまま、今年も保護の聖人の祝日を迎える。

## 季刊誌「みるとす」について

協力司祭 洗礼者ヨハネ 内藤 孝文 神父 ofm

前任地の教会に居た時のことでした。地元紙に掲載される死亡者欄に、教会の信者さんの名前があり、それによると、葬儀がお寺で行なわれたことを、或る信者さんから聞きました。私は、話してくれた信者さんを通して、亡くなった方のことを調べてもらいました。

亡くなった方は高齢で病気を併発し、入居していたその町の老人ホームに入居していたこと。家族の中で、ただ一人の信者であったこと。高齢と病気が重なって、教会から遠のいていたこと。家族の方達は、その方がカトリック信者であることを知っていたが、どうすればよいのか分からず、結果的に地区のお寺で葬儀を出したことなど、事情が分かって来たのです。亡くなられた方は、当時の信徒名簿からも漏れていました。信徒記録も調べてみました。すると「不明」と書かれた場所にその方の名前カードがあったのです。

教会委員会で、その出来事を話し、何かしようということになりました。しかし、広い地域に点在する、そのような信者さん達の現状が、ネックとなり、具体的なことをすることが出来ませんでした。亡くなられた方は、車でも約2時間かかる牧場の方でした。そのうちに、私は瀬田修道院に異動してしまいました。

三軒茶屋教会に通うようになって以来、前任地でやり残したことが私の中にありました。何人かの信者さん達に、高齢や病気などの理由で、教会から遠のいている信者さん達に対してのケアのことを話してもみましたが、様々な理由で実際に行動に移すことが出来ませんでした。

今年になって、或る信者さんから、そのような人達に対して、季刊誌を発行したらどうか？と持ち掛けられました。そして、話し合いを重ね、教会委員会、主任司祭の承認を得て、3月27日の復活の主日に、「みるとす通信」創刊号を発行することが出来ました。

「みるとす通信」は、高齢や病気、または、何らかの理由で、ミサに来ることが出来ない信者さん本人、その家族の方達と、三軒茶屋教会との繋がりを持つもの。そこには、信者さん本人に対して、「私達は、あなたを忘れてはいませんよ。私達に出来ることがあったら、相談して下さい」という想いが込められています。また、家族の方達に対しては、本人の信仰生活を支える上で、教会が出来ることを理解してもらうことを目的としています（例えば、ご聖体を持って行くことが出来ること、病者の塗油の秘跡のこと、その時を

迎えた時などのこと)。

5月29日のキリストの聖体の祭日に、第2号が発刊され郵送しました。「みるとす通信」は、年4回発行します(復活祭、キリストの聖体の祭日、聖母被昇天、主の降誕)。また、対象者は、去年の敬老のお祝いの案内の中で、近況が記され、「欠席」の返信をされた方々をベースにしています(現在54名)。ですから、まだまだ不完全と言わざるを得ません。私達が知らない方がいると思います。そのような方がいましたら、是非、教えて下さい。

更に、年齢に関係なく、何らかの理由でミサに来れない方達にも、繋がりたいと考えています。今は、体が動かなくなったり、ベットの上での生活を余儀なくされている信者さんでも、おそらく、体が動いていた頃には、教会のために働いて下さったであろう方達を、私達は大切にしたいと考えています。

### 「みるとす」の名前の由来

ミルトスは、和名ではギンバイカ(銀梅花)、またドイツ語ではミルテ、英語ではマートルの呼び方で親しまれています。フトモモ科の常緑の低木で、春先に、長い多くのおしべが特徴の和名の通り、梅に似た白く輝く花を咲かせます。葉や実は強い香を放ち、入浴剤や鎮痛剤に使われ、枝木は生垣にも使われます。花の後に成長する実は生食出来るそうです。

ミルトスは、切られた後も生命力が強く、枯れ難いところから、干ばつにも耐える強木として、不死の象徴となり、それ故に、成功・繁栄の象徴ともなっています。

ユダヤ暦7月(今日の太陽暦では9~10月)の仮庵の祭で、出エジプトの際の野宿生活を思い起こす小屋造りに不可欠な木です。

聖書ゆかりの地方で祝事がある時は装飾に用いられ、「祝福の木」とも言われ、臨終の床に備えたり、結婚式に於いて、花嫁が天蓋(カノピー)の下でブーケとして手にし、またウエディング・リースに編み込んだりするそうです。

イザヤ書55章12~13節に、『いらくさの代わりにミルトスが生える』という記述がありますが、これは、神に立ち帰る者は、苦難が天よりの祝福に変わるという意味です。

欧州でもお祝いの花として愛されていて、オーストリア皇妃エリザベトの肖像画の髪には、星のように散りばめられた白い花が飾られています。これは

愛と栄光、祝福を象徴するミルテ(=ミルトス)の花です。

また、ミルトスをテーマにした音楽としては、シューマン作曲の歌曲集「ミルテの花」が知られています。この最初の曲「献上」は、シューマンがクラ

4

との結婚に際して、花嫁が身につけるミルトスの花を愛の象徴として献げる気持ちを込めて作曲されました。また、リスト編曲によるピアノ・ソナタも有名です。



「みるとすの花」

## マザー・テレサ列聖式巡礼団参加募集

9月4日にバチカンで行われるマザー・テレサの列福式に、阪急交通社が募集する「マザー・テレサ列福式巡礼団」の同行司祭として、思いがけずに参加することになりました。巡礼団の詳細はカトリック新聞で発表されたので、ブログでもお知らせしたいと思っています。「いつくしみの特別聖年」の一つの頂点ともいえるべきこの式典に、皆さんと一緒に参加できることはこの上ない喜びです。どうぞよろしく願いいたします。

巡礼団の問い合わせ先：阪急交通社 成田発着：03-6745-7377

(片柳弘史神父の6月16日ブログの記事より転載・片柳神父事前了承済)



## 熊本地震緊急募金について

	募金額	(内訳)	現金送金(支出)	支援物資 (支出)	残金
4月17日	¥106,071				
4月24日	¥191,152	一般 86.000			
		マリアン 30.000			
		有志 75.152			
4月22日			① ¥100.000	② ¥63.710	
5月1日	¥11,379				
5月8日	¥26,300				
	¥3,400				
	¥9,200				
	¥10,000				
5月15日	¥22,694				
5月16日			③ ¥100.000		
			④ ¥115.856		
		送金手 数料	290+340		
<b>合計</b>	<b>¥380,196</b>		<b>¥380.196</b>		<b>¥0</b>

① 福岡教区へ送金

② よかなスタジアムへ 支援物資 カップ麺・水のいらないシャンプー・おしり拭き粉ミルク・ボデーペーパー

③ 熊本慈恵病院 内藤神父様持参  
場所：マリアの宣教フランススコ修道院敷地内

④ カリタス熊本へ送金

## こよみ

### 6 月

- 6月26日(日) 当教会守護聖人 聖ペトロ・パウロ使徒の茶話会
- 6月29日(日) 聖ペトロ・聖パウロ使徒
- 6月30日(木) ローマ教会最初の殉教者たち

### 7 月

- 7月 1日(金) 福者ペトロ岐部司祭と 187 殉教者 (記)
- 7月 3日(日) 年間第 14 主日
- 7月 4日(月) 聖エリザベト (ポルトガル) 皇后
- 7月 5日(火) 聖アントニオ・マリア・ザカリア司祭
- 7月 6日(水) 聖マリア・ゴレッティおとめ殉教者
- 7月 9日(土) 聖アウグスチノ・チャオ・ロン司祭と同志殉教
- 7月10日(日) 年間第 15 主日
- 7月11日(月) 聖ベネディクト
- 7月13日(水) 聖ハインリッヒ
- 7月14日(木) 聖カミロ (レリス) 司祭
- 7月15日(金) 聖ボナベントゥラ司教教会博士
- 7月17日(日) 年間第 16 主日
- 7月21日(木) 聖ラウレンチオ (プリンディジ) 司祭教会博士
- 7月22日(金) 聖マリアーマグダラ
- 7月24日(日) 年間第 17 主日
- 7月25日(月) 聖ヤコブ使徒
- 7月29日(金) 聖マルタ
- 7月31日(日) 年間第 18 主日

### 8 月

- 8月 1日(月) 聖アルフォンソ (リゴリ) 司教教会博士
- 8月 4日(木) 聖ヨハネ・マリア・ビアンネ
- 8月 6日(土) 主の変容 8月6日～8月15日迄カトリック平和旬間
- 8月 7日(日) 年間第 19 主日
- 8月 8日(月) 聖ドミニコ司祭
- 8月10日(木) 聖ラウレンチオ助祭殉教者
- 8月13日(土) 聖ボンチアーノ教皇 教会納涼ビヤーパーティ
- 8月14日(日) 年間第 20 主日
- 8月15日(月) 聖母の被昇天 ミサ 10時30分～



## あ と が き

- ◇ 当教会守護の聖人・聖ペトロ 聖パウロ号です。
- ◇ 今号の「おとずれ」の巻頭言は、湯澤神父様の「聖ペトロ聖パウロ祭によせて」と題しての記事を掲載しております。聖ペトロ 聖パウロ号に相応しい内容です。湯澤神父様が今まで司牧された各教会、聖人祝日の対応等の変化が良く理解できます。
- ◇ 内藤神父様の季刊誌「みるとす通信について」は、教会に何らかの理由で来られない方々のために発刊されました。「みるとす通信」を送りたい方々がさらにおられましたら、内藤神父様までご一報ください。
- ◇ 来る9月4日は、マザー・テレサの聖人としての列福式が行われます。片柳弘史神父の巡礼団の案内を掲載しております。
- ◇ 次回「聖母の被昇天号」は8月15日号です。



『おとずれ』第61巻 第4号 2016(平成28年)6月26日発行  
発行 カトリック三軒茶屋教会  
編集・印刷 カトリック三軒茶屋教会・広報委員会  
主任司祭：ミカエル 湯澤 民 夫  
〒154-0024 世田谷区三軒茶屋 2-51-32  
TEL 3421-1605 FAX 3421-9788  
<http://home.f05.itscom.net/sancha/index.htm>  
[sancha-catholic0629@leaf.ocn.ne.jp](mailto:sancha-catholic0629@leaf.ocn.ne.jp)

# 玉川通り宣教協力体・合同堅信式

カトリック東京大司教区

と き：2016年8月28日(日)10:30～  
ところ：カトリック三軒茶屋教会・聖堂  
司式：ヤコブ 幸田 和生 司教



堅信式終了後、三教会合同の交流パーティを開催  
各教会参加者一品持寄りで実施